

尾瀬ネイチャーラーニング募集要項

県内 市町村(学校含む)及び学校法人向け

尾瀬国立公園、芳ヶ平湿地群の自然などの魅力を生かした 探究的・教科横断的なSTEAM教育の実践

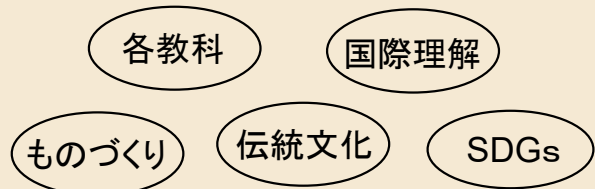
1 尾瀬ネイチャーラーニング補助金制度の目的

群馬らしい学びにより始動人の輩出を目指し、群馬の魅力を広く県内外に発信することを目的とし、尾瀬国立公園又は芳ヶ平湿地群(以下「尾瀬等」という。)の自然環境や観光資源の魅力を生かした学びと体験により探究的・教科横断的なSTEAM教育を実践する。

尾瀬ネイチャーラーニングを活用したSTEAM教育イメージ

各学校の取組に、尾瀬等での様々な体験を生かした探究的・教科横断的なSTEAM教育

学校で取り組んでいる行事、単元及び題材などの課題



×

尾瀬等の自然環境や観光資源の魅力等を生かした様々な探究活動(尾瀬ネイチャーラーニング)

- ・自然環境の原体験
- ・ゴミ問題
- ・外国人からみた尾瀬
- ・尾瀬の伝統行事
- ・尾瀬をテーマにした曲作り、名産品作り

2 補助事業者(補助金交付対象者)

県内に小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校(前期課程)及び特別支援学校(小学部、中学部)を設置する市町村(以下「市町村」という。)、学校法人及び国立大学法人(以下「法人」という。)に対し、尾瀬ネイチャーラーニング補助金交付要綱(以下「要綱」という。)に基づき補助金を交付します。

※本事業における補助金交付対象者は、上記の他に県内の社会教育関係団体、県外の小中学校等及び社会教育関係団体も含まれます。

3 補助対象となる事業

- (1) 小中学校等において、目的(探究課題)を持ち、各教科等で育まれた資質・能力を生かして尾瀬等の自然の中で、主体的に探究課題に取り組む学習であること*1。
- (2) 尾瀬等での体験活動においては、概ね小中学生約8名に対して一定の要件を有するガイド(以下「ガイド」という。)1名が同行すること。
- (3) ガイドによる事前学習を実施するものであること。
- (4) 事後学習(振り返り又は学習成果のまとめ)を実施し、児童生徒の学習成果を校外に向けて発信するものであること*2。

校外への発信方法

- ・公開型の発表会(学習発表会、文化祭等)
- ・Webサイトへの掲載(学校ホームページ等)
- ・新聞紙面への投稿
- ・県有施設(tsulunos、県民ホール、県民ギャラリー)からの発信

※県有施設の利用を御希望の場合は、あらかじめ自然環境課尾瀬保全推進室まで御相談ください。

*1 総合的な学習の時間、もしくは、学校行事において総合的な学習の要素を取り入れて実施する場合の、尾瀬等での探究題材例や実践例について、別添1-1を御確認ください。

*2 学習成果については、文集、写真集、ホームページや動画の制作等、どのような形でかまいません。上記以外の校外にむけた発信方法の可否については、別途、自然環境課尾瀬保全推進室まで御相談ください。

4 補助対象経費と補助率

補助対象経費及び金額	補助率
(1)ガイド料(事前学習実施経費を含む) …ガイド1名当たり23,000円 ※尾瀬内の山小屋に宿泊して2日間ガイドをつける場合 …ガイド1名当たり46,000円	原則 補助対象経費の総額1/2
(2)バス借上料(有料道路使用料、駐車料を含む) …1日分実費*3	「5つのゼロ宣言」を宣言済みしくは当該年度12月31日までに宣言予定の市町村及びその市町村に所在する法人*4 補助対象経費の総額2/3

*3 宿泊で実施する場合は尾瀬等で環境学習を実施する日1日分の実費(実費が算出できない場合は1日分相当の定額)を補助します。ただし、遠方の学校等が小中学生の健康を考慮して宿泊で実施する場合は2日分のバス借上料を補助できる場合もあります。該当する学校は、市町村教育委員会を通じて(法人の場合は直接)自然環境課尾瀬保全推進室へ事前に御相談ください。

バスガイド料、保険料及び小中学生等の宿泊料は補助対象外です。

*4 「ぐんま5つのゼロ宣言」については、群馬県HP「トップページ」組織からさがす＞知事戦略部＞グリーンイノベーション推進課＞2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』を御参照ください。

当該年度の「5つのゼロ宣言」の予定については、各市町村の担当課までお問合せください。宣言予定で補助率2/3を適用するためには、事業計画書の提出(令和7年4月)の際に「5つのゼロ宣言」計画書(任意様式、必須記載項目あり)が必要となります。宣言予定をした場合でも、当該年度12月31日までに宣言できなかった場合、補助率は1/2に減額になります。

◎「5つのゼロ宣言」計画書作成における必須記載項目

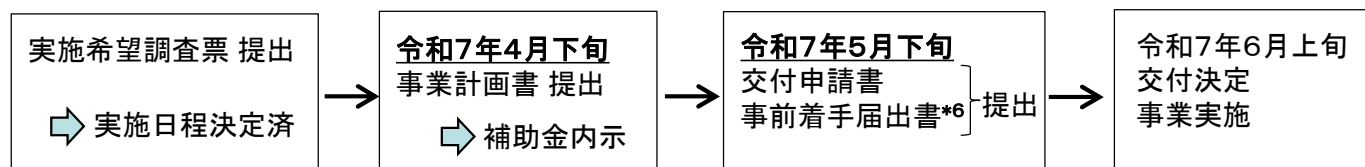
1. 表題(例:〇〇市 5つのゼロ宣言 計画書)
2. 担当課名、責任者名、担当者名、連絡先(電話番号、メールアドレス等)
3. 宣言の予定日

5 補助金の交付申請手続き等

- (1) 要綱に基づいて補助金の申請手続きを行います。具体的な申請手続き(事業計画書、交付申請等の提出)については、自然環境課尾瀬保全推進室から市町村教育委員会又は法人に連絡いたします。
- (2) 市町村及び法人は、補助金収入及びガイド料、バス借上げ料の支出(役務費、賃借料等)について、予算措置を行ってください。

(3) 募集用スケジュール

尾瀬・芳ヶ平での現地活動期間:6月7日～10月10日*5



*5 尾瀬・芳ヶ平は標高が高い山岳地帯のため10月中旬になると、霜が降りたり、降雪になる場合もあります。また、営業終了する山小屋もあります。参加者の安全管理を踏まえ、本事業での現地活動実施は10月10日までとします。

*6 やむを得ない事情で交付決定前に事業に着手(実施に係るバスの手配等)する場合は、交付申請書提出時に併せて事前着手届出書【様式第2号】を提出してください。

(4) 現地調査

「尾瀬ネイチャーラーニング」補助金事業では、交付決定を受けた者に対し、現地での活動の様子等について調査を行う予定です。調査については、県職員等により行いますが、調査の対象となった者には事前に連絡しますので、御協力をお願いいたします。

(5) 各種問い合わせ

申請や現地での活動について等に関する問い合わせは随時受け付けております。

●尾瀬国立公園で実施する場合

群馬県環境森林部 自然環境課 尾瀬保全推進室

電話 027-226-2881 FAX 027-220-4421

E-mail kanshizen@pref.gunma.lg.jp

●芳ヶ平湿地群で実施する場合

群馬県環境森林部 自然環境課 自然環境係

電話 027-226-2872 FAX 027-243-7702

E-mail kanshizen@pref.gunma.lg.jp

(6) 申請書類の提出先

※申請書類は、郵送又はメールで御提出ください。

群馬県環境森林部 自然環境課 尾瀬保全推進室

住所: 〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

電話 027-226-2881 FAX 027-220-4421

E-mail kanshizen@pref.gunma.lg.jp

6 学校等で行う主な準備

※ 主な準備についてのみ記載しています。

・尾瀬等での体験を題材にした、STEAM教育の実践については、別添1-1を参考にしてください。

・現地の概要や学習案、持ち物、緊急時の対応等については、「尾瀬学習プログラム」、「尾瀬学習プログラムー学習活動編ー」、「尾瀬学習プログラムー山小屋宿泊編ー」又は「芳ヶ平湿地群環境学習実施の手引き」も参考にしてください。

(群馬県総合教育センターのHP【各課発行・提供資料】>義務教育課>人権・キャリア教育推進係関係資料>環境教育に関する資料 からダウンロードできます。)

(1) ガイドについて

① 各学校を担当するガイドは、学校の実施希望に基づいて県が調整して割り振ります。

担当ガイドが決まり次第、ガイド団体の窓口から各学校へ、ガイドの割振り、チーフガイドの決定について連絡があります。

② その後のガイド関係のお問合せは、チーフガイドへ連絡を取り、事前学習の実施日程や内容、当日の行程等について打合せを行ってください。

※ガイド団体の窓口については、実施校に別途お知らせいたします。

◎尾瀬ネイチャーラーニング、ガイド団体事務局（窓口）

【尾瀬】

尾瀬ハイキングガイド 桂田直樹

Tel: 090-1122-6312 または 0278-58-4824(オウレット内) Fax: 0278-58-4823

※尾瀬に入っている場合、電話に出られない場合もあります。御了承ください。

【芳ヶ平】

芳ヶ平湿地群環境学習ガイド協議会 代表 木村正臣

Tel: 080-1002-9752 mail: yamaameumikaze@gmail.com

(2) バスについて

- ① 市町村立学校の場合、バスの手配(契約)方法は市町村によって異なりますので、市町村教育委員会の指示に従ってください。法人は各自で手配してください。
- ② 尾瀬戸倉～鳩待峠間を通行できる貸切バスは「乗車定員が11～29名かつ車両の長さ7m以下」という条件があり、この条件にあてはまるバスは要綱上の「小型車」として補助対象です。

※学校から大型バス等で来て、戸倉で小型バスに乗り換えた場合、乗り換えた後の車両運賃等は補助対象外となります。学校から鳩待峠へ向かう際は、なるべく同一車両で移動できるよう御検討ください。

※当日同行するガイドもバスに同乗しますので、乗車予定人数を考慮して必要台数を計算してください。

(3) 教材について

- ① 実施予定校には、参加小中学生人数分の教材「尾瀬ミニブック」、「尾瀬フィールドマップ」、「尾瀬を守る仕組みー公衆トイレ、木道ー」(3点セット)又は「芳ヶ平湿地群ミニブック」を配付します。
- ② 「尾瀬国立公園誕生DVD」(NHKエンタープライズ制作)(平成20年度配付)や尾瀬立体地図(新規実施年度に配付済み)を御活用ください。
- ③ 本事業におけるSTEAM教育の実践例については、別添1-1を御参照ください。

(4) その他注意事項

- ① 荒天時等の代替見学先は、尾瀬や自然に関する施設を想定しており、ガイドが同行いたします。
(行き先、内容によっては補助金の対象外になりますので、事前に自然環境課尾瀬保全推進室に御確認ください。)
- ② 尾瀬ネイチャーラーニングの現地体験活動は6月初旬～10月上旬としています。8月～9月上旬は比較的空いており、のびのびと学習することができます。
- ③ 尾瀬の山小屋の活用を是非御検討ください。群馬県側山小屋の特別料金制の適用については、現在関係者と協議中です。決定次第、別途御連絡いたします。
- ④ 現地で不測の事態等により経費等が発生した場合、補助金の対象になる場合もあります。
該当事案が発生した場合は速やかに自然環境課尾瀬保全推進室へ御連絡ください。

7 その他

- (1) 山岳地帯は気候が変わりやすく雨がよく降りますが、現地学習は多少の雨であれば実施できます。
ただし、雷注意報発令時には安全のために行動範囲が限定される場合があります。
荒天時の中止・延期・行き先変更等の判断は、チーフガイドと相談のうえ原則として前日までに行ってください。
- (2) 実施日の変更を希望する場合は、速やかに自然環境課尾瀬保全推進室に御相談ください。
- (3) 本事業におけるSTEAM教育実践の参考のため、学習教材を作成しました。
以下の群馬県HPIに掲載していますので、ぜひ御活用ください。
<https://www.pref.gunma.jp/page/1210.html>



「今朝の尾瀬山ノ鼻」

シーズン中、山ノ鼻地区の
その日の午前7時の天気や
気温が掲載されています。

◆尾瀬ネイチャーラーニングに関する問合せ先◆

自然環境課 尾瀬保全推進室 企画推進係(尾瀬)	027-226-2881
自然環境課 自然環境係(芳ヶ平湿地群)	027-226-2872
グリーンイノベーション推進課(ぐんま5つのゼロ宣言)	027-226-2817
教育委員会 義務教育課 人権・キャリア教育推進係	027-226-4612

尾瀬・芳ヶ平における探究題材集

尾瀬国立公園や芳ヶ平湿地群で学ぶことができるの探究題材例を集めました。

今、注目されているSDG s やSTEAM教育につながる総合的な学習の時間、もしくは、学校行事において総合的な学習の要素を取り入れて実施する場合に御参考ください。

SDGs …「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」の略で、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すために、国際連合で採択された17目標

STEAM教育…Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics等の各教科での学習を実社会の課題解決に生かしていく教科横断的な学習

※太枠内の三つの課題及び探究課題の例は、文部科学省学習指導要領より抜粋

三つの課題	探究課題の例	尾瀬又は芳ヶ平での探究題材例
横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観（国際理解）	・ラムサール条約登録湿地としての尾瀬、芳ヶ平湿地群 ・日本の国立公園の仕組み ・外国人に群馬の魅力としての尾瀬をPR
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化（情報）	・尾瀬でインターネット、携帯電話が使用可になったことでどのような変化が起きたのか？
	身近な自然環境とそこに起きている環境問題（環境）	・尾瀬の自然 ・尾瀬の自然保護の歴史 ・外来植物 ・トイレの浄化槽・ゴミ問題 ・尾瀬における地球温暖化の影響
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々（福祉）	・高齢者が楽しめる尾瀬を考える（現地に行く方法、リモートで楽しむ方法等）
	毎日の健康な生活とストレスのある社会（健康）	・登山と健康の関係 ・自然環境とストレス軽減
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題（資源エネルギー）	・水、太陽光発電 ・尾瀬におけるダム開発の歴史
	安全・安心な町づくりへの地域の取組と支援する人々（安全）	・尾瀬を安全、安心に利用するための取組（木道管理、鳥獣害対策、保全対策等）と支援する人々
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者（食）	・山小屋における食品ロス対策（残食を減らす工夫、食材の調達方法など）
	科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化（科学技術）	・科学技術の進歩による尾瀬の変化（輸送方法、浄化槽、クリーンエネルギー、学術調査の手法）
地域や学校の特色に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（町づくり）	・尾瀬で活躍するボランティア ・尾瀬保護財団、尾瀬山小屋組合、ガイド
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化）	・山小屋 ・尾瀬ガイド ・尾瀬の行事行事 ・地元の尾瀬関係者の取組
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域経済）	・地元高校生と企業で取り組む尾瀬の植生回復 ・尾瀬の入山者回復に向けての取組
	防災のための安全な町づくりとその取組（防災）	・山小屋等に設置されているAED ・簡易トイレ等の防災グッズを実地で試してみる ・尾瀬(山岳地)における防災体制
児童生徒の興味・関心に基づく課題	実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）	・尾瀬で働く人々(山小屋、歩荷、工事関係者、ビジターセンター職員等)
	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展（ものづくり）	・だれもが興味を引く尾瀬のシンボル作り(曲、名産品) ・尾瀬を便利に利用できる道具を考える
	生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ（生命）	・尾瀬、芳ヶ平湿地群の自然、その成り立ち

尾瀬ネイチャーラーニング実践例：「総合的な学習の時間」で、各学校が設定する探究課題について、追求する過程の一部として尾瀬ネイチャーラーニングを活用する場合の事例 ☆：尾瀬ネイチャーラーニング活用箇所

中学校 単元例 （探究課題：郷土資源の発掘、地域経済、ものづくり）
単元「群馬を好きになり、群馬に学び、群馬の発展に関わろう」全●時間

つかむ過程 (4時間)

1 探究課題(学習対象)と出会い、単元の課題を把握する

①探究課題(学習対象)と出会う

◇群馬の好きなところや魅力だと思っている事、嫌いなところや残念だと思っている事、をグループで話し合い、共有する。

★工夫：話のきっかけになるものとして、身近な素材（上毛カルタ等）を利用する。

☆セ：仙境尾瀬沼、花の原

②単元の課題を把握する。

◇ゲストティーチャー（観光、メディア、暮らし等の分野）から群馬の魅力や現在の取組について話を聞き、単元の課題をつかむ。

☆課題によっては、ゲストティーチャーとして、ガイドの事前学習を活用（注1）。

★工夫：子ども達が主体的に考えられるような工夫をする。（例：ぐんまウエルカムサポーターズに登録、

【単元の課題】

ぐんまウエルカムサポーターズの一員として、群馬の魅力や課題について追及し、様々な形でのPR方法を考え、群馬の発展のために発信しよう。

③追求の見通しをもつ。

◇群馬の魅力や課題をウェビングする活動を通して関連性について気付かせ、理解を深めさせる。

追求する①過程【知る、体験する】 (13時間)

2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追求する。

①課題の設定

◇群馬の魅力を県外の人に発信するために、取り組むべき課題を明らかにする。

【課題】（グループ例）

県外に発信したい群馬の魅力は？
具体的にどのようなところが魅力なのか？

②情報の収集

☆探究学習の中で、群馬の魅力の一つとして、尾瀬を取り上げる。ガイド事前学習では、児童生徒の知りたいことを積極的にくみ取り、現地学習に生かす。

◇群馬の魅力の一つとして、尾瀬について調べる（パソコンや情報誌など）

☆尾瀬等の現地学習。

◇尾瀬に行き、入山者や現地で働く人にインタビューなどを行う。また、自分の五感を使って尾瀬の情報を集める。

★留意点：ここでは、群馬の魅力として尾瀬を取り上げているが、尾瀬を他の場所に置き換えて考えてもよい。

③整理・分析

◇事前に収集した情報と、実際に尾瀬で得た情報を整理し、違う点、その通りだった点などをまとめる。
◇インタビューなどから得た情報をグラフ、図表などでまとめる。

④まとめ・表現

◇③でまとめたこと尾瀬の魅力等について学級内等で発表し、グループ間で意見交換する。

注1）補助対象としてのガイド事前学習は1回です。

単元のねらい

現地体験及び群馬（尾瀬）を訪れる人や担い手へインタビュー等を実践して、その魅力や課題解決への取組について情報を収集し、群馬の魅力をより多くの人につたえる活動に広げる。ものづくり（効果的な魅力の伝え方）の楽しさ、群馬についての学び、群馬の発展への貢献等を通して、将来に向けてこれからの自分の生き方や群馬について見つめ直すことが出来るようにする。

追求する②過程【広げる】 （12時間）

3 新たな課題を見だし、継続して追求する。

①課題の設定

◇これまでの学習、体験から自分たちが感じた群馬（尾瀬）の魅力を県外の人たちに対し、どのように発信すればいいか、話し合う。

【課題】（グループ例）

群馬（尾瀬）の魅力を県内外に効果的に発信するにはどうしたらよいだろうか。

②情報の収集

◇尾瀬の魅力を効果的に表現するための情報を収集する。

- ・インターネットや旅行雑誌
- ・他の場所の事例や過去のブームのきっかけ
- ・自分たちが興味を引く発信方法

★工夫：普段、自分たちが得ている情報の発信方法や夢中になったきっかけを元に、どのような工夫をすればよいか考える。

③整理・分析

◇自分たちで収集した尾瀬に関する情報、感じ取った魅力について様々な表現方法の検討を通じて、尾瀬を含む多くの群馬の魅力について理解し、群馬への思いを深める。

★様々な効果的な表現にチャレンジ：

例）曲作り（参考：過去にヒットした「夏の思い出」）
名産品作り（参考：ダムカレー、スイーツ）
パンフレット作り（参考：他の観光パンフレット）

④まとめ・表現

◇ぐんまウエルカムサポーターズの一員として、群馬の魅力について発信する。

★留意点：表現方法に合わせた適切な発信方法についても併せて検討する。

まとめる過程 （1時間）

4 単元全体の学習を振り返る。

◇これまでの学習を発信の成果などから振り返り、頑張ったことや成果を話し合う。

◇「つかむ」過程で自分たちが考えていたことと現在を比べ、考えが変わったことや成長したことをワークシート等にまとめる。

「つかむ」過程における子供の意識

○ ○ ○ ○



「まとめる」過程における子供の意識

○ ○ ○ ○

★追求①又は②のまとめ・表現等で、尾瀬の魅力を伝えるためにまとめた学習成果（曲、名産品、動画、パンフレット）を学校HP、学習発表会、県の発信の場を利用して県内外へ発信。

★県は発信の場として、tsulunus、県民ホール、県民ギャラリー、県外部HP（検討中）を提供。

尾瀬ネイチャーラーニングを活用した総合的な学習の時間モデルプラン

単元名「守ろう、豊かな群馬の自然」 全●時間

単元のねらい

私たちが暮らす群馬県の名所の一つである尾瀬についての現状や取組を調べることを通して、尾瀬の価値やそれを守る人々の思いを知り、環境をよくするために自分たちができることを考えるとともに、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。

区分	過程	主な学習活動	備考
事前学習	つかむ	1. 探求課題（学習対象）と出会い、単元のめあてを把握する。（尾瀬認定ガイド） ○尾瀬認定ガイドの事前学習（出前講座）を通して、尾瀬がどのような自然であるかを知り、世界の自然の今・未来についての課題意識を持つ。 （内容） ・生き物の数が減っている。 ・外来種が増えている。 ・地球温暖化（CO2増加） ・湿地の減少 ・ラムサール条約の取組み →持続可能な社会のためには、自然を守っていく必要がある。 <u>単元の課題：尾瀬の自然の大切さを知り、守っていこう</u>	【提供できる話題例】 ・尾瀬の地理、気候、成り立ち ・尾瀬の保護の経緯、守る仕組み ・山小屋 ・湿原の作り方（泥炭） ・尾瀬の植物 ・ツキノワグマの生態 ・シカによる影響 ・尾瀬の動物 ・国立公園 ・尾瀬を守る人々（ボランティア） ・尾瀬と世界のつながり（ラムサール条約・渡り鳥）
	追求する	2. 単元のめあてに基づき、個人・グループ等の課題を設定し、追究する。 ①課題の設定 →尾瀬を守る活動について知りたい。 →尾瀬のためにできることは何だろう。どんな尾瀬の姿だったらいいだろう。 →尾瀬の仕事について知りたい。 ②情報の収集（尾瀬認定ガイド） ・尾瀬で活動をしている人の話を聞く。活動を見に行く。 ・尾瀬を守る活動について調べる。 ・自然体験を試みる。（見学・体験） →森を守るためには、木を狩り下草を刈り新たに木を植える必要がある。 →間伐材の有効活用も森を生かす一つの方法なんだな。 ③整理・分析 ・課題の解決にむけて体験したことや、調べた情報を整理する。 ・尾瀬を守るために必要な活動（保全活動）についてまとめる。 ④まとめ・表現 ・全校児童、保護者、地域の人に発表する。 →自分たちも、自然を守る活動をしてみたい。 →どんなことが自分たちにできるだろうか。	【課題例】 ○外来種 ○尾瀬の現状と課題 ○人と湿原とのつながり ○湿原について ○地球温暖化と湿原の果たす役割 →日本の森林は、荒れたまま放っておかれた人工林が多くなっている。人工林の手入れをし、どんどん木を使い、新しい木を植えていかなければならない。 →森を守る活動をし、これからも生き物が住める森になるといいな。
		3. 新たな課題を見だし、継続して追及する。 ①課題の設定 →尾瀬を守る活動で自分たちにできることはないかな。 →尾瀬の魅力をより多くの人に伝えたい。 【課題】（グループ例）尾瀬の魅力をより多くの人に伝えるために、何をどのように発信したらよいだろうか。 ②情報の収集 ・インタビューを行ったり、情報発信の仕方を調べたりする。 ③整理・分析 ・自分たちの取組の良さ・効果について話し合う。 ④まとめ・表現 ・自分たちが考えた取組を、実践したり発信したりする。	赤城山の間伐材を使うをことで行うことで赤城山の森を守ることにつながる。 →赤城山の間伐した木材を学校や地域の人のために役立てて日本の木をもっと使うように呼びかけたい。
事後学習	まとめ・発信	4. 単元全体の学習を振り返る。 ○自分たちの取組の実践を通して学んだことをまとめる。	自然と人間、動植物が共存していることを学ぶことで、持続可能な社会にするために、どのような行動をとるべきか考えることにつながる。

尾瀬ネイチャーラーニング 実践一例

「総合的な学習の時間」で、各学校が設定する探究課題について、追究する過程の一部として尾瀬ネイチャーラーニングを活用する場合の事例

★：尾瀬ネイチャーラーニングの活用箇所



★追究②でまとめ・表現したものを発信。

・児童生徒の学習成果(新聞、動画、ポスター、行動宣言等)を学校HP、学習発表会、県の発信の場を利用して校外へ発信。

★県は発信の場として、tsulunos、県民ホール、県民ギャラリー、県外部HP(検討中)を提供。

注1) 補助対象としてのガイド事前学習は1回です。

「はばたく群馬の指導プランⅡ 総合的な学習の時間」(群馬県教育委員会 令和元年8月)を加工

まとめ・表現における教科横断的な取組及び様々な発信方法について

[illegible]